

77巻1号

2022年1月1日

YAA 天文会報

(1~3月号)

791号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



C2021A1 レナード彗星

撮影: 山形幹夫

観望ガイド

正木

2022年を迎えました。新型コロナを撲滅することは無理なような気がします
が、共存しつつもう少し安心して過ごせる日々が来ることを祈りたいです。

本年もよろしくお願いいたします。

今年の天象は、11月8日に皆既月食があり、全国でかけ始めから終わるまで見
ることができ、同時に天王星食も起こります。これが今年一番のイベントになり
そうです。

1月の天象というとやはりしぶんぎ座流星群です。今年は3日が新月で、極大時
刻が4日の午前6時頃と予想されており、最高の条件となっています。放射点も北
東の空高くなり、明け方の薄明に向かって出現が増えていくように見えることを
期待しています。この季節は日の出時刻が遅いので、ちょっと早起きすれば見る
ことができます。あとはお天気だけです！

1月上旬、日没後の南西の空に木星が見えていて、それより低い位置に土星、さ
らに水星が見え、さらに4日から6日にかけては細い月が近くを通過していきます。
日没後の茜から群青の美しいグラデーションの空の中、月と水星、土星、木星を
眺めてみましょう。特に水星は7日が東方最大離角で前後数日が見やすいです。

2月・3月はとくに大きな天文現象はないのですが、2月3日に日没後の西南西
の低い空で木星と細い月が近づきます。

また1月9日以降明けの明星となる金星を中心に月や惑星との接近があります。2
月27日・28日に日の出前の南東の空で金星・火星に月が接近します。さらに3月
28日・29日には日の出前の南東の低空で金星・火星・土星が三角形に並んでい
るそばを新月前の細い月が通っていきます。

右は昨年11月19
日にあった部分月
食の写真です。

月が昇ってきた直
後の低空であり、ま
た横浜では雲が多
かったのですが、月
食の前半は何枚か
撮影できました。



冷やし中華の行方

山形幹夫

この1年勉強のために購入した冷却CMOSカラーカメラを使った撮影にトライして参りました。カラーカメラの欠点ばかりご報告いたしましたが、駄目というわけでは決してありません。私が所有するカメラと同じ機種で撮影された画像が先月号の天文雑誌で最優秀作品に選ばれています。見てみると撮影時間は合計7時間にも及んでいました。これだけ努力されていることに頭が下がります。が、例えば表紙画像と同じデジカメで同様な撮影しても結果に差が出るとは思えません。このデジカメでも素晴らしい作品が入選しています。

ということで、撮像素子が小さい当該冷却カメラは星雲星団等の撮影には使用しない方針です。ではその行方は？と考えたのですが、素子サイズが1インチと小さいなら、惑星や月を撮れないかと思いました。f=1400mm、25cmニュートン式望遠鏡に取り付けて星雲撮影の準備をしていた時に木星で天体位置の同期を行うつもりでしたが、ガスがバンバン流れていて中々同期できずに待機していました。その時木星を撮影してみるか、と思いつき撮影したのが下の画像です。露出を32msにして感度設定し、動画で2分間撮影してスタック処理しました。初めてでもこの程度なら誰でも撮れると納得した次第です。機会があればもっと焦点距離の長い望遠鏡に取り付けて撮影に臨みたいと思います。

今年の撮影方針ですが、2014年に購入してずっと使用していなかった25cm f=1000mm (F4) ニュートン式望遠鏡を活用することにしました。本品は買ってはみたものの安物につきものな欠点が色々ありまして、先月から部品を購入して本格的な撮影の準備に取り組んでいます。購入した部品代の方が本体価格を上回っ



てしまいました(笑)。主に鏡筒自体の剛性をアップする改造と、メーカー純正コマコレクターの性能に不足があるためWinny型のコマコレクターを購入しました。撮影できましたら誌上にてご紹介したいと思います。1000mmは中途半端な焦点距離ですが、F4という明るさの望遠鏡を使ってみると露出時間が短い、又はカメラ感度を下げられるという有難みを実感しています。

表紙画像：レナード彗星 (C/2021 A1) 2021年

12月11日 5:23撮影開始 露出15秒×26ショットをステライメージでメトカーフ合成、ニコンD810A、Nikkorズームレンズ約250mm f5.6 感度設定ISO8000 画像処理にてセルフフラットを実施した結果、周辺部の画像がちよっと変。撮影地：入笠山。この彗星は太陽に接近し夕方に見えるようになった時、少し増光がありました。日本では細かい構造が分かるような画像は撮影できませんでしたが、アフリカのナミビアで撮影された画像がTwitterにアップされ話題となりました。まだ見られるか分かりませんが、URLは次の通りです。

<https://twitter.com/Comet2021a1> やはり日本の空は透明度も悪いし、光害もありますし、トホホな状態です。

日月星の伝承を訪ねて (70)

横山好廣

興津川水系・星の民俗調査②

●調査地域----静岡市清水区興津川水系（参照・前号地図）

- A、興津川中流域（小島・但沼・立花）
- B、国道 52 号、小河内川流域（小河内・宍原）
- C、中河内川流域（中河内・木山野）
- D、興津川上流域（土、河内、大平）

◎平成 24 年(2012)4 月 6 日、平成 25 年(2013)10 月 12 日調査

D、興津川上流域 河内(こうち)・土(ど)・大平(おおひら)地区

- ・月見----十五夜だけ、十三夜はしない(河内・土・大平)。
 - ・「十五夜さんには、ヘソ餅」という(土)。
 - ・ヘソ餅は上新粉を練って形を整えてから蒸した。砂糖を付けて食べた。今は、ヘソ餅の中に餡が入ってあるので、蒸して食べるが、餡が入っていないときは茹でたりする(土)。
 - ・ヘソ餅は他所へ頼んでいる。餡の入ったヘソ餅は蒸し、餡の入っていないヘソ餅は茹でる(大平)。
 - ・ススキ・萩・里芋・ヘソ餅などを供える。子ども達は母親が運転する車で「十五夜さん、貰いに来ました」といって、ヘソ餅や菓子を貰っていく(河内・大平)。
 - ・ヘソ餅・ススキ・萩を供える。子ども達が貰いに来るのでヘソ餅・菓子を用意しておく(河内)。
 - ・ススキ・里芋・栗・柿・サツマイモ・ヘソ餅などを供える。昔は、縁側に供えてあったものを直接手でとった。親からは月見に飾ってあるもののはとっても盗みにならないと教えられた。今は、ヘソ餅や袋入りの菓子を用意しておき、貰いに来た子たちにあげている(土)。
- ・七夕----短冊に願い事や大人に教えてもらって七夕の和歌を書いた。七夕様が終わると興津川に流した(河内)。
 - ・昭和 40 年代頃までは、8 月 7 日に笹竹を玄関先に立て、8 日には興津川に流した。「七夕さんには、ぼた餅を食べる」といい御馳走であったが、七夕さんにぼた餅を供えなかった(河内)。
 - ・里芋の葉の朝露を集めるのが子どもの仕事、その朝露で墨をすって短冊に願い事などを書いて笹竹に吊るし、軒先に立てた。8 日には笹竹を川に流した(土)。
 - ・里芋か、或いは稲穂の朝露を集めて墨を摺り、短冊に願い事を書

いて笹竹に吊るした。笹竹は7日に軒先に立て、8日に川に流した(大平)。

＊稲穂に溜まった夜露を集めるというのは興味深い。

- ・二十三夜さん---昭和4年生まれの男性からの話。子どもの頃、二十三夜さんは講の集まりでなく、各家庭でやっていた。この日は五目飯や味付け飯を二十三夜さんに供えてから頂いた。何月のことであったか憶えていない(河内)。

＊但沼の二十三夜様との関連は不明。

- ・二十六夜さん---昔、8月26日に河内に大石が流れ着いた頃の話である。この時の洪水で多くの犠牲者が下流の「くずさわ」(葛沢か)にあがったが、その集落の人々はその死者を懇ろに弔ってくれた。その後も「二十六夜さん」といって、8月26日に祀っている。河内では、その日に施餓鬼をするという。昭和14年生れの婦人から聞いた話である。「二十六夜さん」という呼称から月待行事のことを想像したが、月待ではなさそうである。

＊因みに8月26日付近の災異を調べると、安政3年(1856)8月25日の風水害のことが各地の書誌に遺されている。例えば、『武江年表』、横浜生麦の『関口日記』をはじめ、『静岡県史』・『戸塚郷土誌』・『茅ヶ崎市史』などの郷土史誌等に記載されている。『続徳川実紀』にも関連記事がみられる。江戸時代最大級の台風が到来し、沿岸には高潮を引き起こし、甚大な災害をもたらしたようである。河内の「二十六夜さん」は、この安政3年8月25日の台風被害に由来するのではないかと推測する。

参考・『静岡県史』別編2 自然災害誌(静岡県 1996)

＊この件に関連して、酒匂川流域(小田原市)の「ロクヤさん」を思い出した。

「ロクヤさん」とは、8月26日に酒匂川で水死した人の供養に「六夜地藏尊」を祀る行事である。確かな由来は不明であるが、ともに安政3年の台風と関係するような印象を抱いている。更なる検討を要する事案である。



小田原市中曽根、富士道橋袂「六夜地藏尊」
左の木札には「水難/厄除 六夜地藏尊」と墨書されている。

- ・星名---アケノミョウジョウ・ヨイノミョウジョウ(金星)

-
- ・ヨバイボシ(流星) (以上、河内)
 - ・ノンノサン(月) 悪いことをすると「ノンノサンが見ている」と教えられた。
 - ・ナナツボシ(北斗七星) (以上、土)

以上が興津川水系の星の民俗調査報告である。おわりに、お月見やヘソ餅に関する習俗等を整理して本稿のまとめとする。

(月見の回数)

- ・月見の回数は、A・Bの地区は「片飾りをしない」という言い伝えがあるように十五夜と十三夜の両方をする傾向がある。一方、C・Dの地区では十五夜だけの傾向が窺われる。

(お供え)

- ・調査地全体に、お供えはススキ・萩・ヘソ餅・里芋・サツマイモが共通しているが、果物(柿・栗)や野菜(大根)も供えるという事例もあった。お供えにいては、各家庭の生業も反映すると思われるが、月見にヘソ餅は欠かせないようで、ヘソ餅は他県には見られない静岡県に特徴的なお供えである。
- ・ヘソ餅を何もつけない純白のままで、月に供えるという行為に興味を覚えた。色のついていない、真白で清潔・無垢な餅を月の神に神饌としてお供えする意図を感じる。このことは、十五夜・十三夜は単なる月見でなく、大切な農耕儀礼の一面を持つものであることを示唆しているように思える。
- ・十五夜に供えるヘソ餅の個数は、元々は十五個ではないかと想像するが、全体に数にあまり拘っていない、大らかな風土を感じる。

(お供えをとる)

- ・立花地区に伝わる「子どもは月の代わりにお供えを貰って歩く」という伝承は、お供えをとる行為の変容であろう。子どもは月の代わりだから、子ども達がお供えをとる行為は容認されてきた。土地区では、お供えをとっても盗みにならないと親が教えてくれたという。集落全体でお供えをとる行為を認める共通理解のもと、お供えはわざと取られやすいように縁側等に備えられていたのである。また、とられることを喜んでいるのではないだろうか。
- ・神の存在は見えないので、月の神の代理である子ども達も同様に見えてはいけないのである。だから、子ども達は家人に見えないように身を隠し、竹の棒でヘソ餅などをとったのであろう。決して盗む行為ではないのである。
- ・宍原地区に伝わる、月見の晩に子ども達が柿などの成り物をとってよいという話も同根で、この習俗の対象物に広がりを感じる。子ども達は月の代わりになって、姿を隠して月の神様が大好きな初物の果物をとるのである。
- ・今は、親が車で付き添い、「十五夜さん、貰いに来ました」と言って貰い歩くこともあるそうで、時代の変遷を感じる。

(ヘソ餅の呼称)

- ・調査地での呼称はすべて「ヘソ餅」であった。
- ・「ヘソ」は体の真ん中にある臍を象ったものであるといわれている。しかし、粽麻(卷子)からヘソ餅の名が生まれた可能性も視野に入れておきたい。

(ヘソ餅の由来等)

- ・ヘソ餅はお月見に供え、食するという行事食的な色合いが強く、日常的に作り、食するという事例は少なかった。
- ・ヘソ餅の由来は不明なようで、当地でもヘソ餅の由来に関する話は聞けなかった。徳川家康に因んだヘソ餅の話もあるが、由来譚ではなさそうだ。

(ヘソ餅の作り方・食べ方)

- ・ヘソ餅は、必ずその年の新米でこしらえるという伝承が途絶えたのか、そういう話は聞けなかった。新米でヘソ餅を作るという行為には、豊作を予祝する意図・豊作を願う気持ちが込められている。
- ・ヘソ餅は、どの地域でも上新粉を練って成形してから、蒸して作るという回答であった。茹でるという方法をこの地域ではとらないようである。
- ・かつては、各家庭で作られたヘソ餅も、今では外注や菓子店で購入する家庭が多くなっているようだ。一方、A、興津川中流域と B、国道 52 号、小河内川流域ではヘソ餅を各家で作る話を比較的多く聞くことが出来た。
- ・食べ方としては、黄な粉をまぶす方法と焼くか煮て砂糖醤油かだし汁で食べるのが一般的のようである。土や大平では餡が入っていないときは茹でたりするそうである。一般に、餡で食べることは少ないようである。餡入りのヘソ餅は新しいタイプで、外注、菓子店に依るのかも知れない。

(少子化)

- ・「子どものいる家は、子ども達がよその家にヘソ餅などを盗りに行くので、自分の家でも必ず月見をする」という考え方は、A～D 全地区に共通理解されていると思われる。このことについて、逆の見方をすると、子どもが少なくなると月見が廃れることに繋がりがねないということになる。日本で少子化が叫ばれて久しい。月見に限らず諸行事の将来について、夫々の地域で、行事の意味を再考し知恵を出し合うことが大切であると思う。

*前回の報告では、ヘソ餅などの供物をを「とる」行為に「盗る」の漢字を充てたが、「とる」行為は「盗る」ことではないので、今回はその点を改めた。

(「興津川水系、星の民俗調査」 了)

天 象

相原 榮

1月

水星: 夕方の西南西天で高度を上げる(上旬観望好期) $-0.7 \sim +1.3$ 等 やぎ→いて座
金星: 夕方の南西天低空、後半は明け方の東南東天 $-4.2 \sim -4.8$ 等 いて座
火星: 明け方の南東天 $+1.5 \sim +1.4$ 等 へびつかい→いて座
木星: 夕方の西南西天 -2.1 等 みずがめ座
土星: 宵の南西天 $+0.8 \sim +0.7$ 等 やぎ座

1日	明け方に月と火星・アンタレスの接近	10日	03h11m 半月(上弦)
3日	03h33m 新月	13日	夕方に水星・土星の接近
4日	06h しぶんぎ座流星群が極大の頃 (条件最良) 夕方に月と水星の接近	18日	08h48m 満月
5日	18h14m 小寒 夕空に水星・土星・月・木星が並ぶ	20日	11h39m 大寒
6日	夕方に月と木星の接近	25日	22h41m 半月(下弦)
		26日	未明に火星とM8(いて座干潟星雲)の 接近

2月

水星: 明け方の東南東天 $+1.3 \sim -0.1$ 等 いて→やぎ座
金星: 明け方の東南東天で高度を上げる(観望好期) $-4.8 \sim -4.9 \sim -4.7$ 等 いて座
火星: 明け方の南東天 $+1.4 \sim +1.3$ 等 いて座
木星: 夕方の西天 -2.0 等 みずがめ座
土星: 太陽方向で観望困難 $+0.7 \sim +0.8$ 等 やぎ座

1日	14h46m 新月	24日	07h32m 半月(下弦)
3日	夕方に月と木星の接近	26日	明け方に月とM8(いて座干潟星雲) の接近
4日	05h51m 立春	28日	明け方南東天に月・金星・火星・冥 王星が集合
8日	22h50m 半月(上弦)		
17日	01h57m 満月		
19日	01h43m 雨水		

3月

水星: 明け方の東南東天低空 $-0.1 \sim -1.7$ 等 やぎ→みずがめ座
金星: 明け方の南東天に輝く(前半は観望好期) $-4.7 \sim -4.4$ 等 いて→やぎ座
火星: 明け方の南東天 $+1.3 \sim +1.0$ 等 いて→やぎ座
木星: 太陽方向で観望困難 -2.0 等 みずがめ座
土星: 明け方の東天低空 $+0.8$ 等 やぎ座

3日	02h35m 新月	18日	16h18m 満月
5日	23h44m 啓蟄	21日	00h33m 春分
7日	宵の西天で月と天王星が接近	25日	14h37m 半月(下弦) おとめ座流星群が極大の頃
10日	19h45m 半月(上弦)	29日	明け方の東南東天で月・金星・火星・ 土星が集合
16日	明け方の東南東天低空で金星と火 星の接近		